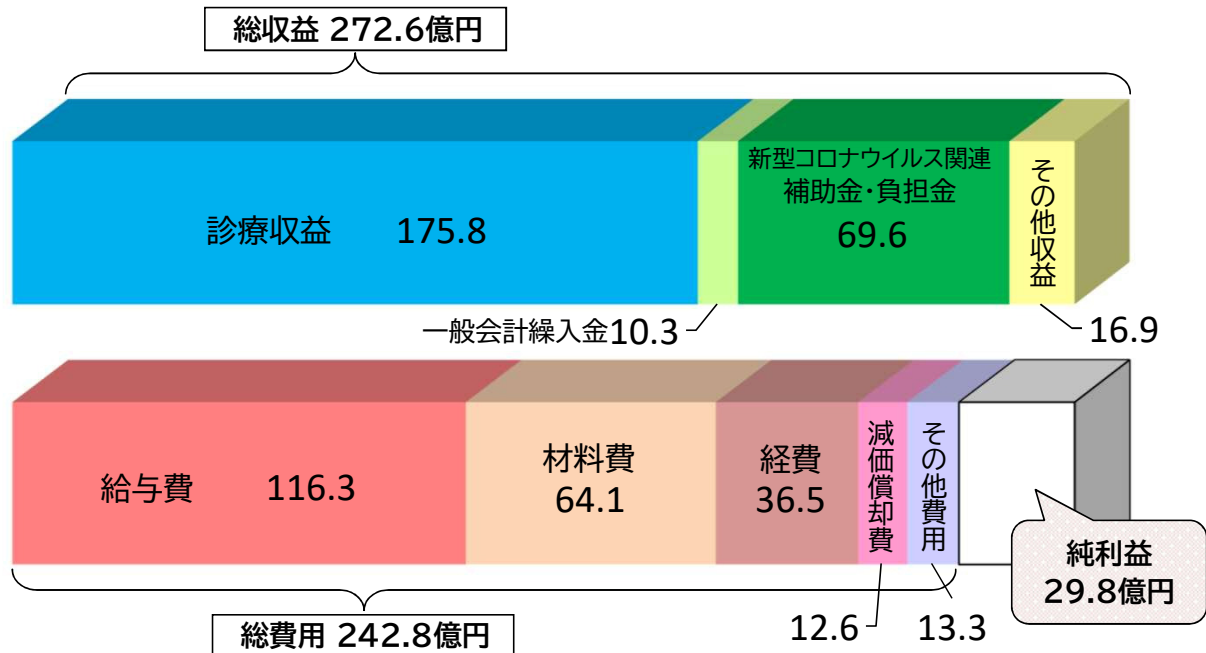


令和2年度決算の概要

令和2年度の病院事業会計決算は、新型コロナウイルス感染症患者受入れの影響により、診療収益が前年度に比べ37.8億円減少しましたが、感染症病床確保促進事業等の補助金収入により、純利益は29.8億円となりました。

資金の状況としては、令和2年度単年度の資金残は28.7億円、過年度内部留保資金・一般会計からの長期借入金を合わせた年度末資金残は34.7億円となっております。

(1) 収益的収支(税込) <経営に伴って生じたすべての収益とそれに対応する費用⇒1年間の経営成績>



【前年度との比較】

<総収益>

対前年度 +25.5億円(+10.3%)

<総費用>

対前年度 +0.8億円(+0.3%)

<内訳>

○診療収益 対前年度 ▲ 37.8 億円

新型コロナウイルス感染症患者受入れのため、一般病床の縮小等を行ったことによる。

○給与費 対前年度 +2.0 億円

会計年度任用職員制度への移行などによる。

○繰入金 対前年度 ▲ 7.3 億円

○材料費 対前年度 ▲ 6.0 億円

患者数や手術数の減少による。

○新型コロナウイルス関連補助金・負担金

対前年度 +69.6 億円

感染症病床確保促進事業補助金66.3億円ほか。

○経費 対前年度 ▲ 1.5 億円

○減価償却費等 対前年度 ▲ 0.9 億円

○その他収益 対前年度 +1.0 億円

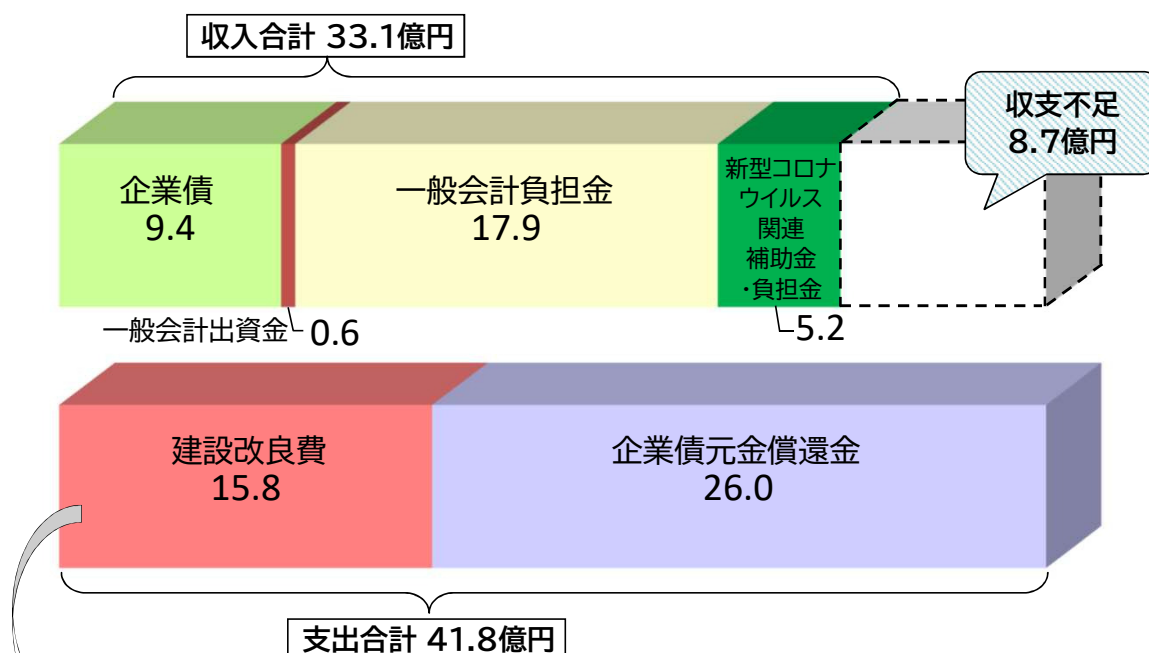
○その他費用 対前年度 +7.2 億円

新型コロナウイルス感染症対応従事者への慰労金等。

収益的収支は前年度から24.6億円の好転

※ただし、感染症病床確保促進事業補助金66.3億円がなかった場合、収益的収支は▲36.5億円となり、前年度から41.7億円のマイナスとなっていた。

(2) 資本的収支(税込) <建物や医療器械などの整備費用とその財源、借入金の返済など>



【建設改良費の内訳】

- 病院整備費 3.2 億円 ヒートポンプユニット設備更新工事ほか
- 医療器械購入等 12.6 億円 高精度放射線治療システムほか

(3) 資金状況

当年度収支	21.1億円
(収益的収支29.8億円+資本的収支▲8.7億円)	
+	
損益勘定留保資金等(現金を伴わない収益と費用等)	7.6億円
当年度分資金残	28.7億円
+	
過年度内部留保資金(前年度までの資金残)	▲21.0億円
+	
一般会計からの長期借入金	27.0億円
年度末資金残	34.7億円

この資金については、市立札幌病院が、新型コロナウイルス感染症への対応を行いながら、救急や周産期等の医療を安定して供給し、地域の医療を支えていくために活用しています。